

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成30年5月25日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 お待たせいたしました。ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○大熊総務課長 それでは、お手元の広報日程に基づきまして、私から補足説明をさせていただきます。

まず、1ページ目下段、5月29日火曜日、(1)の審査会合でございます。こちらは特定重大事故等対処施設に係る審査のため、非公開にて開催をさせていただきます。議題といたしましては、四国電力・伊方発電所3号炉の特重に係る工認の審査を予定しております。

次に、2ページ目上段、同日5月29日でございます。(2)と記載のある審査会合でございます。こちらは、議題といたしましては、日本原電・東海第二原子力発電所の設置変更許可に係る審査を予定しております。前回審査における宿題、コメントへの回答ということで、コリウムシールドの妥当性についての審査を行う予定でございます。

次に、中段、5月31日木曜日、(6)の審査会合でございます。こちらは議題として2件予定をされております。

まず、議題の1つ目が、JAEAの試験研究用原子炉施設でございます放射性廃棄物の廃棄施設の新規制基準適合性の審査を予定してございます。こちらは大洗にある施設でございます。

内容といたしましては、津波による放射性物質の海洋流出の評価についてのコメント回答を予定してございます。一昨年秋に審査を行い、その際に評価の再検討を求めていたことについての説明を受けるといふものでございます。

次に、議題の2点目といたしまして、日本原電株式会社の廃棄物埋設施設の事業許可申請に係る審査を予定してございます。こちらは事故・異常時の想定事象の選定及び評価等について説明を聴取し、審査を行うという予定でございます。

私からの御説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ドイさん。

○記者 電気新聞のドイです。

予定表とは関係ないのですけれども、四国電力から伊方発電所の乾式貯蔵施設の設置で申請があったということですのでけれども、こちらの審査というのは具体的にいつごろから取りかかれるかというか、審査会合の見通しなど、もしありましたら教えてください。

○大熊総務課長 今御質問いただきました四国電力・伊方発電所の使用済燃料の乾式貯蔵施設の設置についての申請、これは本日ですね、提出をいただいたところでございます。本日提出されたところですので、審査の具体的なスケジュールは決まっているものはございません。今後、内容を確認しながら審査に入って進めていくということしか、済みません、現時点では申し上げられません。

乾式輸送貯蔵系の乾式キャスクを活用した貯蔵施設ということですので、大きな方向として、規制委員会としても安全性の観点から考えている方向と合致しているものと思いますので、申請に対応して審査をしっかりと行っていきたくと、こう考えております。

○記者 もう一点、この審査のやり方なのですのでけれども、発電所の審査会合の一環というか、進めていくような形になるのでしょうか。

○大熊総務課長 済みません。そこも先ほどのお答えと同じで恐縮です。申請いただいたばかりで、具体的な審査の進め方は決まっていなくてございまして、私自身、報告を受けていないという部分もございまして。現時点では具体的な方法については、お答えできることはございません。

○記者 分かりました。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。タケオカさん、どうぞ。

○記者 共同通信のタケオカと申します。

昨日の北朝鮮の核実験場の爆破に関して、規制庁としてモニタリングなど、何か対応している部分があれば教えてください。あと、また、今後そういう予定があるのかどうかも含めてお願いします。

○大熊総務課長 報道等で核実験場を閉鎖したということは聞いております。特にこれに対応してモニタリングを、特別なことをするというをしているわけではございませんが、当然、常時監視、モニタリングポストを含めて体制を整えてございますので、その中で何か異常があれば、しっかり対応していくということが当然でございまして。それ以上の対応として現時点で考えているものはございません。

○司会 それでは、以上でよろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。